1999年における東芝の技術成果

新市場を拓く技術力の強化

取締役　専務
笠 見 昭 信

インターネットとディジタル化の進展のなかで，市場構造と事業構造がダイナミックに変化しており，今ほど新しい市場を切り拓く技術力と人材が求められている時はありません。昨年4月から社内カンパニー制をスタートさせ，八つのカンパニーがグローバルな視点で，戦う市場と相手を明確にし，必要なコア技術の強化とともに開発のスピードを加速していく体制としました。

来年3月からの第3世代携帯電話システム（W-CDMA），及び今秋からのBSディジタルテレビ放送のスタートは，新しい様々なサービスを可能にし，幅広いユーザーに大きなインパクトを与えることになります。当社は，新市場を拓くモバイル＆インターネット＆サービスとホームネットワークを旗印に技術者を結集し，お客さまの期待にこたえるべく大きな目標にチャレンジしているところです。このようななかで，1999年の技術成果のポイントは下記のとおりです。

まず，モバイル機器／ワイヤレスネットワークの分野では，当社が先行するCMOSカメラとMPEG-4を搭載し，リアルタイムで動画を処理し送返信できるミニノートパソコンを開発しました。携帯電話（cdmaOne機）では，高速パケット通信に対応し，Eメールやインターネット上のコンテンツ閲覧が効率良くサービスできる軽量（73 g）機を実現しました。ノートパソコンと携帯電話の融合・発展のキー部品となる超高精細（200 ppi）ポリシリコン液晶ディスプレイ，低消費電力（対CCD比1/5）のCMOSセンサモジュール，MPEG-4対応システムLSI，世界最小のCDMA用SAWフィルタ，高容量薄型リチウムイオン二次電池（ALB）を開発・商品化しました。また，これらの情報端末を無線でコネクトできる新しい“Bluetooth”の開発も世界のプロモーターの一員として精力的に進めています。一方，モバイル環境でのコンテンツサービスについても，NTT移動通信網（株）のご指導の下，“mopera”サービス向けのコンテンツ制作からサーバ管理までを一貫して行い，“駅前探険倶楽部”ほか多数のコンテンツを運営しています。以上の技術・製品の相乗効果により，モバイル＆インターネット＆サービスの価値連鎖を力強く推進しています。

このほか，ディジタルテレビ，ケーブルモデム，ホームゲートウェイなどのホームネットワーク分野，トレーディングシステム，Web Topプラットフォーム，ITS，高品質音声合成，ミドルウェアなどのシステムインテグレーション／サービス分野，及び家電機器分野，環境／エネルギー／産業分野，デバイス／材料分野の各重点分野での技術成果を掲載しました。

以上，ダイナミックに変化する市場にチャレンジしていく当社の製品とサービスの技術施策の一端を述べましたが，具体的な技術成果は本文をご一読いただきたいと思います。皆さまのご助言，ご指導をいただきたくお願い申し上げます。